

スポーツ系専門学校生における人生観・価値観について

○廣田 治久 (余暇問題研究所) 下田 由香 (スポーツ・エデュケーション・アカデミー)

キーワード：人生観 価値観 スポーツ系専門学校

I 緒言

現代社会のさまざまな状況下の中にあつて、今後の安定・発展のためには若者に対する期待は少なくないところである。そのことは、当然レジャー・レクリエーションの分野においても、その新たな発展や成熟、国際化など多方面においても、次世代を担う若者に対して同様の期待が寄せられている。しかるに、次世代の担い手である若者がどのような人生観・価値観をもっているのか、その実情を把握しておくことは重要なことに考えられ、そのために、全国規模の青少年を対象とした意識調査などが従来から行われてきた。

しかしながら、従来にみられる調査は、ごく一般青少年を対象としたものが多く、特定の立場にある青少年の人生観・価値観などの状況については、それらの結果からの推定に頼らざるを得ない。

そこで、本研究では、スポーツ系S専門学校生を対象に、全国調査と比較しながら、その特性を把握しようとした。なぜならば、スポーツ系専門学校生は今後のレジャー・レクリエーションでの活躍が期待され、その特性を把握することは大いに意義のあるものと考えられるからである。

II 本研究の目的

本研究では、スポーツ系専門学校に通う学生を対象に

①意欲②自信③熱中④生き方⑤生き甲斐の5項目について

1) 全国調査との比較検討

2) 性別間の比較検討

を行い、スポーツ系専門学校生の人生観・価値観の特徴、実状を明らかにすることを目的とする。

III 研究方法

- 1. 調査対象： スポーツ系S専門学校生 200名 (男子：114名 女子：86名)
- 2. 調査期日： 1996年 4月19日
- 3. 調査方法： 質問紙による集合調査法 回収率：100%
- 4. 質問項目： 5項目65問

Q1	意欲	「これだけは若いうちにやっておきたいこと」	(17問)
Q2	自信	「自信のある領域」	(12問)
Q3	熱中	「学校生活での熱中事」	(9問)
Q4	生き方	「生き方や考え方」	(18問)
Q5	生き甲斐	「生き甲斐を感じる時」	(9問)

各質問項目は、「青少年と活力—青少年の活力に関する研究調査報告—」

総務庁青少年対策本部編 昭和60年8月30日発行

「働くことの意識」調査報告書

(財)社会経済生産性本部 (社)日本経済青年協議会

平成6年6月30日発行

から、本調査に合わせた修正を加えて用いた。

5. 回答形式： Q1からQ4については複数回答、Q5については単数回答で回答を求めた。

6. 分析方法： 単純集計による比較

IV 結果

S校で行った調査結果に全国調査を踏まえながら、その概要、および考察を加える。

① —これだけは若いうちにやっておきたいこと—

「技術や資格を身につける」が81.0%と最も多く、ついで「趣味や楽しいことを存分にやる」(72.0%)「人間関係を豊かにする」(68.5%)「友人を得る」(63.5%)の順で上位を占めている。総務庁の行った全国調査を見ると「友人を得る」「人間関係を豊かにする」「技術や資格を身につける」「趣味や楽しいことを存分にやる」が上位を占めている。しかし、項目は同じもののその順序に違いが見られた。そのほかには、S校生では全国に比べて支持する割合の多いものに「いろいろな経験をする」「お金をもうける」「冒険する」「外国へ行く」「根性を身につける」「恋愛をする」があげられる。

男女間を比べると、その割合がわずかながら女性が男性を上回っている項目が全体に多い。逆に男性が大きく女性を上回っている項目は、「お金をもうける」(男性：57.0% 女性：41.9%)「体力をつくる」(男性：39.5% 女性：24.4%)であった。

② —自信のある領域—

S校生において自分の自信ある領域として最も多く支持されたのは、「その気になれば何でも人並みにできる」(51.0%)であった。「身近に悩みや心配事はない」(45.0%)「苦しいことに耐える力はある」(44.0%)「高校時代スポーツは上手」(42.0%)「交友関係を広げる」(41.1%)であった。全国と比べると「健康や体力には自信がある」「その気になれば」「交友関係」「身近に悩み」「苦しいこと」と上位5項目に変わりはないものの、その順位の点で違いが見られた。全国とS校で最も支持に差のあったものは「健康体力」で、全国58.8%、S校37.5%であった。

男女間では、男性が「苦しいこと」「高校スポーツ」「その気になれば」の順で、女性が「その気になれば」「身近に悩み」「交友関係」の順であった。

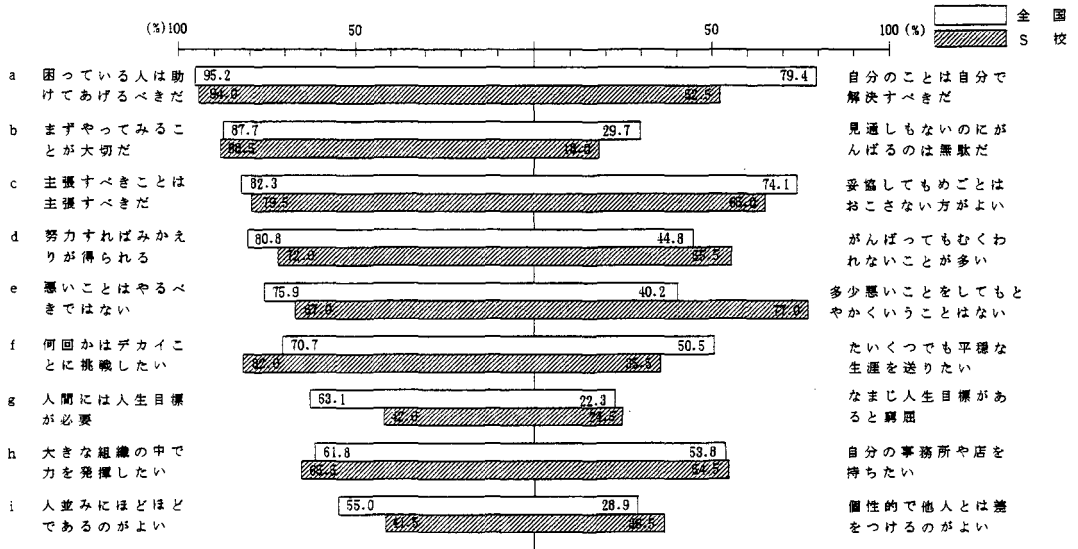
③ —学校での熱中事—

学校での熱中事については、「友人や先輩とのつきあい」(61.5%)「日頃の授業や講義」(46.0%)「就職のための勉強」(45.5%)「アルバイト」(44.0%)の順で占めている。男女の比較では、上位の項目は変わらないが、その順位の違いが見られた。各項目での割合は、男性に比べて女性に高い支持が得られている。

全国調査と比較すると、S校生で上位にあった「授業や講義」「就職のための勉強」「アルバイト」が全国ではそれぞれ24.5%、19.6%、11.9%と低い。逆に全国では、「クラブ・サークル」(37.2%)が2番目であったが、S校では、14.5%の低い割合になっている。

④ 一生き方や考え方一

18項目の通常相反すると考えられる項目を対にし、9つの組み合わせをつくった。



<図-1> ④生き方・考え方

- a 「困っている人は助けてあげるべきだ」は、S校生、全国ともに高い割合を占めているのに比べて、「自分のことは自分で解決すべきだ」は全国79.4%に対して、S校生52.5%と低い。
- b S校生、全国共に「まずやってみることが大切だ」の積極的な姿勢が高く、逆に「見通しもないのにがんばるのは無駄だ」の消極的意見は少ない。とくに、S校生にその傾向が大きい。男女間では、消極的意見に対して女性の指示が高い。
- c 「主張すべきことは主張すべきだ」「妥協してもめごとはおこさない方がよい」S校生、全国ともにその割合は高いが、男女間では、「主張すべき」については女性の支持が高く、「妥協して」については男性が高い。
- d 「努力すれば見返りが得られる」はS校生、全国とも7割を超える支持があるものの、「がんばってもむくわれないことが多い」については、5割程度に低い。男女間では、「努力すれば」に対して女性に8割以上の支持があり、「がんばっても」については、男性に高い割合である。
- e 「悪いことはやるべきではない」はS校生、全国ともに高いが、「多少の悪いことをしてもとやかくいうことはない」ではS校生が全国を大きく上回っている（S校生：77.0% 40.2%）。また、女性は「悪いことは」に対しても、男性よりも高い支持を示している。
- f 「何回かはデカイことに挑戦したい」は7割以上の支持があり、特にS校生に高い。「退屈でも平穏な生涯を送りたい」は、全国が50.6%に対して、S校生は35.5%と低い。男女間では「何回かは」が同程度に対して、「たいくつでも」は男性3割、女性4割と女性に高い支持が見られた。

- g 「人間には人生目標が必要だ」は全国が63.1%に対して、S校生は42.0%と低い。
「なまじ人生に目標があると窮屈」は両者ともに差がなく、2割程度と低い支持であった。男女間では両項目ともに、男性の支持が高い。
- h 「大きな組織の中で力を発揮したい」、「自分の事務所や店を持ちたい」の2つの項目に対して、S校生、全国ともあまり大きな差はみられなかった。但し、男女間に「自分の事務所」に関して男性68.4%、女性36.0%の大きな差が見られた。
- i 「人並みに程々であるのがよい」は、S校生41.5%と全国に比べて低く、「個性的で他人とは差をつけるのがよい」は、S校生36.5%と全国に比べて高い割合であった。特にS校男子にはその傾向が高い。

⑤ 一生き甲斐を感じる時—

どんなときに1番生き甲斐を感じるかの問いに対して、「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」(26.0%)「友人や仲間とつきあっているとき」(21.5%)「親しい異性といるとき」(10.0%)の順であるが、全国では、「友人や仲間」(38.7%)「スポーツや趣味」(24.5%)「親しい異性」(22.6%)の順になっている。特に、「友人や仲間」については顕著な差が見られた。男女間では、女子の順序が全国のものと同様の順序であった。

V まとめ

全国調査との比較：

- 1) 技術や資格、趣味の分野に対する意欲が高い。
- 2) 全国と自信を持っている項目に大きな差はないが、健康体力面に対して自信がやや低い。
- 3) 学校では、全国と同様に交友関係に熱心であるが、その他の方面にも高い傾向が伺える。
- 4) 自助努力が全国に比べて低く、多少のことなら悪いことともといった考え方がやや高い。
平穏よりも挑戦していきたい考え方、個性的であることを望む傾向が高いが、その反面具体的な目標を決めかねている。
- 5) 全国に比較して、趣味やスポーツに打ち込んでいるときに生きがいを感じている傾向が高い。

性別間の比較：

- 1) 男女ともに専門性や趣味・楽しみ、人間関係に対する意欲の高さは変わらなかった。
女性は友人や経験を積みたいという傾向が男性に比べ高いが、男性はより現実的な「お金」「体力」にたいする意欲が女性に比べ高い傾向が見られる。
- 2) 男性は忍耐力や運動能力に対する自信が比較的高く、女性は経済面の安定や対外的な交友に自信を持つ傾向が伺える。
- 3) 全体として、男性に比べ女性の方が学校に対しての熱心さが高いようである。
- 4) 女性は、努力に対して正当な評価を求める傾向が高い。それに比べて男性は、その逆の傾向がやや見える。また、そのためか、女性に比べ自分の事務所や店を持つといった自立を考える傾向が高い。

以上のようなことから、スポーツ系専門学校生の人生観・価値観の一端を伺うことができた。しかし、より詳しくその実状を探っていくためには、データをもとに全国との比較検証の必要性を感じざるを得ない。